

島根県立島根女短大 ○岡 稜子
野津 哲子

1. 被服製作については、いろいろな方法があるが、そのほとんどが従来の模倣に終わっているように思われる。和裁に関する書物を見ても大部分変化が見られないのが現状である。そこで筆者は時代の変化に応じて、和服製作も労力を少なくして、簡単に、合理的に、能率的にしかも美しくできる簡易な方法はないものかと考え本報は先ず和服として最も基本的な単衣長着女物の部分的実験として袖丸みの引きしめ分量を科学的に見出すために本研究を行った。

2. 島根県の和服仕立屋の単衣長着女物の袖丸みの実際の製作方法と島根女子短大で参考にしている書物について調査し、その結果と筆者の考えたものを比較検討した。

3. 第3報の作図方法により実験した結果 10 cm の丸みについて考えられることは、

①袖丸みの仕上げ曲線美が従来の方法よりも良い結果が出て効果が認められた。

②丸みが大きくなるにしたがって、袖丸みの始末の所要時間がずっと短縮されることが判明した。

③縫い縮める寸法も各丸みについて数理的に出せるので指導上の困難が解決される。